

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第54号
文責 校長 西村羊治
令和7年12月1日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

一人一人を大切にすること

右は先月28日（金）の熊日新聞に掲載された、全国中学生人権作文コンテスト県大会で、最優秀賞になった作文です。字が小さくて申し訳ありませんが、掲載させていただきました。

この阿蘇中の宮崎さんは、祖母や母との会話を通して、深い学びをされています。障がいのある人に対する「できないこと」を助け合って、その人ができることが大事なんだよ。」と祖母から学びます。また、「支援っていうのは、相手を下に見ることじやなくやらない方法を考えることじやないんだよ。」との言葉をもじって、深く考え深い学びをしています。

このことは、学校に携わる教師にも通ずるところがあると思いました。児童生徒のしないところ、できないところを指導することは大切ですが、できたこ

私の祖母は、障がい者グループホームを運営している。私の母も、その障がい者グループホームでは、たらく。家ではよく、グループホームの出来事や障がいのある人が安心して暮らすためにはどうしたらよいか、という話をしている。私はその会話を聞き、障がいのある人や障がいのない人も同じように大切にされる社会について考えるようになった。

あるとき、祖母が「できないことを助け合うだけじゃなくて、それができる」とを見つけることができた。私が「大事なんだよ。」と、言っていた。そのとき、私は、「はー」とうやうやしくて、その人に得意なことや好きなことがあって、それを大切にすることが必要なんだと思った。

母も、「支援っていうのは、相

手を下に見ることじやなくて、いつもじよに暮らしやすい方法を考えることなんだよ。」と言っていた。この言葉を聞いて、私は「助ける人」と「助けられる人」という関係ではなくて、「同じ立場」でいつも考えてること」が支援なんだ

と思った。

祖母のグループホームには、いろいろな障がいを持つ人が暮らし、体を動かすことが苦手な人もいれば、計算や字を書くことが難しい人もいる。でもそのかわり、とても気遣いができる人や手先が器用で折り紙を手に折れる人、歌を歌うことが好きで場を盛り上げてくれる人もいる。祖母は、「できないことを考えるより、できることを大事にした方がみんなの笑顔が増えるんだよ。」と言っていた。私は、その言葉を聞いて、とてもすきだと思った。

母や祖母の話を聞いていると、障がいのある人への支援というの



一人一人を大切にすること

阿蘇中1年 宮崎來那さん

生活できることが大切だと思つ。そのために、まず私ができるることをしていきたい。たとえば、友達に優しく声をかけたり、困っている人放つておかげで助けたりすることだ。

最優秀賞 熊本地方法務局長賞

私は、特別な人だけがする特別なことはないと感じる。私達の日常の中にも同じようなことがあると思う。学校で友達が困っていたら声をかけたり、苦手なことを少し手伝つたりすることはだれにでもできる。そういうちよつとした積み重ねが「みんなが安心して暮らせる社会につながるのだと思う。私は将来、祖母や母のような福祉の仕事をするかどうかは分からぬ。でも、どんな場所にいても「その人を一人の人として大切にすること」をわざわざにいたい。

相手の苦手などころだけに目を向けるのではなく、その人のいいところを見つけられるようになりたい。そして、学校でも、友達をからかつたり無視するのではなく、認め合える関係をつくっていくた
いと思った。
人権とは「だれもが大切にされる権利」であつて、障がいがあつても、みんなが安心して暮らせる社会に近づけるようにしていきた
い。みんなが安心して暮らせる社会は、遠い未来のことではなく、私たち一人一人の行動から始まるものだと思っている。

とできるようになったことを、タイミングよくわかりやすく簡潔に誉めて、やる気を引き出すことが大切だと思います。学力や体力、豊かな心を身に付けさせることは教師としての大切な仕事です。でも強制して身に付けさせることより、児童生徒が学力・体力・豊かな心を身に付けたいと思えるように「関わる支援し寄り添う」ことが大切だと思います。無理矢理させるより、本人がやりたいと思えるように仕向けることでしょうか。私も校長として、児童はもちろん、保護者の方、先生方や地域の方々、行政の方々との関係を大切にして、一人一人を大切にした学校運営を目指していきたいと思いました。まだまだできていませんので・・・。